

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03438

研究課題名(和文) 東アフリカの野生食用植物・在来食の可能性 タンザニアにおける栄養分析を通して

研究課題名(英文) Possibilities of wild edible plants and traditional meals in East Africa:  
Through nutrition analysis in Tanzania

研究代表者

阪本 公美子 (Sakamoto, Kumiko)

宇都宮大学・国際学部・教授

研究者番号：60333134

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：タンザニアドドマ州とリンディ州の野生食用植物の活用実態を発掘・確認し、その栄養について先行研究の整理と新たな分析をし、Field Guide to Edible Plants and its Nutrition in Tanzania: Focusing on Dodoma and Lindiとしてとりまとめるとともに、鉄分やカルシウムが豊富なドドマの食用雑草については、広報ポスターを作成した。ドドマ、リンディ、ダルエスサラーム、プワニ、イリンガの食生活・栄養摂取・健康認識、野生食物・在来食の活用や認識について把握し、半乾燥地で雨季に野生食物摂取が高いほど健康認識が良好であることを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

タンザニアの半乾燥地における食用雑草の摂取が、対象者の雨季の健康認識からも、食用雑草の栄養分析からも、先行研究からも、健康に貢献していることを多面的に確認できた。半乾燥地の伝統的な食事パターンの優位性は、食の近代化と生活習慣病の蔓延が進むなか、食生活の見直しを迫ることができるエビデンスのひとつである。タンザニアの2地域(リンディ・ドドマ)の野生食用植物の基礎的調査をすすめ、植物の同定や栄養価の理解を可能とするガイドブックを作成し、知識の記録と共有を可能とする。タンザニアの複数域における食生活の変容・野生食物・在来食を健康や富・相互扶助と関連して分析し、食のあり方を問い直す題材である。

研究成果の概要(英文)：We identified and confirmed the utilization of wild edible plants in Dodoma and Lindi regions of Tanzania, organized previous studies and newly analyzed their nutrition, and compiled them into a Field Guide to Edible Plants and its Nutrition in Tanzania: Focusing on Dodoma and Lindi. In addition, a publicity poster was prepared on the iron- and calcium-rich edible weeds of Dodoma.

Dietary habits, nutritional intake, health perceptions, and utilization and perceptions of wild edible food and indigenous foods in Dodoma, Lindi, Dar es Salaam, Pwani, and Iringa were researched. Analysis on wild food intake frequency and health perception in Dodoma and two inland and coastal villages in Lindi indicated that in the semi-arid Dodoma during the rainy season, the higher the wild food intake, the better the health perceptions.

研究分野：地域研究

キーワード：アフリカ 半乾燥地 栄養 鉄分 カルシウム ドドマ 野生食物 Ipomoea

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

食料問題は世界的な問題としてもこれまで注目されてきたが、経済成長と人口増加が加速しているアフリカにおいては、その対策がますます重要性を増している。東アフリカのタンザニアでは人口増加と経済成長に伴い、これまで小農の世界にて機能していた基盤的な食料確保や分配を可能とする伝統的システムが、トラクターや牛耕を利用した大規模農業化の進行とともに破壊され、危機にある。また多くの途上国と同様、タンザニアにおいても、従来の栄養失調が農村と都市の貧困層の間で継続的な問題として存在する中、都市の富裕層のみならず農村においても栄養バランスの問題として糖尿病や高血圧などの生活習慣病の増加が指摘されている。このように食料・栄養格差が拡大し、食の近代化による健康悪化が同時進行する中、農業の大規模化・効率化、市場の合理化のみによって食料危機と健康悪化が解決される目は立っていない。

他方、現在でも、狩猟採集民のみならず農耕や農牧を営む農村においても、野生植物が食用利用されている実態もある。地域差もあるが、多くの年配者には、これらの野生植物の食料供給源としての有用性が認められているものの、その栄養については十分な分析はなされていない。それどころか、地域によっては「飢餓の食べ物」として、特に若者に蔑まれている実態もあり、必ずしも次世代に継承されない可能性が高い。

野生食用植物や在来食は、人びとの栄養や健康を改善しうるだろうか。野生食用植物の木本については、植物学者 C.K. Ruffo 博士が *Edible Wild Plants in Tanzania* を著したが、草本に関する研究は限られている。また栄養分析は、タンザニアにおける食料問題に寄与する重要な分野であるにもかかわらず疎かになっているため、Ruffo 博士も奨励されるべきであると提言している。タンザニア政府が発行している栄養成分表にも、野生植物に関する記載はない。

本研究課題では、タンザニアにおいてかろうじて活用されている野生植物や在来食を見直し、基礎的な研究をすすめ、栄養分析を行う。また、野生植物や在来食が敬遠されている実態や背景を明らかにする。その上で、地域における栄養状況、野生食用植物へのアクセス可能性、加工、そして人びとの認識を総合的に分析し、食料問題の解決方法としての可能性を地域とともに模索する。

### 2. 研究の目的

研究課題の目的は、

- (A) タンザニアにおける地域の豊かな食用資源(野生植物、在来食)を活用している実態を発掘・確認し、その栄養について分析し、次世代における食用利用の可能性について検討することにある。
- (B) さらに対象地域の食生活・栄養摂取・健康意識の状況、野生食用植物・在来食の活用や認識に関して理解することにある。

### 3. 研究の方法

上記の目的のために、以下の方法で研究を行った。

- (A) タンザニア食用資源(野生植物、在来食)の発掘と栄養分析
  - (A1) タンザニアにおける野生植物の食用利用・在来食に関する基盤的研究: 植物名、分布地域、利用民族などをリスト化し、整理する。申請者が既に収集・同定した植物、先行研究をもとに、研究協力者 Frank Mbago 氏(国立ダルエスサラーム大学ハーバリウム)とともに更に情報や植物を収集し、野生植物の食用利用・在来食に関する基礎的研究をすすめる。
  - (A2) 地域の食生活や健康意識に関する分析結果や栄養分析に関する先行研究を参照し、分析対象の野生植物・在来食を選定し、分析サンプルのパイロット収集・分析を行う。
  - (A3) パイロット分析結果、地域の食生活・意識調査結果を参照し、更に分析対象を確定し、サンプルを収集し、栄養分析を行う。
- (B) 食生活・栄養摂取・健康意識、野生植物・在来食の認識に関する研究
  - (B1) タンザニアにおける栄養に関する統計データをもとに、地域格差(都市・農村、州別)を分析し、対象地域の位置づけを行う。
  - (B2) タンザニア対象地域において食生活・栄養摂取・健康意識に関する現地調査を実施する。
  - (B3) 地域における野生植物の食利用と在来食の認識・加工に関する現地調査を行う。
  - (B4) 食生活・栄養摂取状況地域比較、野生植物・在来食認識地域比較(B2, B3 とりまとめ)
  - (AB5) 調査結果を、対象地域及びタンザニア関係機関にて還元し、将来の活用方法について提言・議論する。また国内外において発表する。

### 4. 研究成果

- (A) タンザニア食用資源(野生植物、在来食)発掘と栄養分析

(A1) タンザニアにおける野生植物の食用利用・在来食に関する基盤的研究

タンザニア南東部リンディ州、中部ドドマ州において食用植物の採取・撮影やスキャン・観察・聞き取りによる研究をすすめ、124種の野生食用植物等(木本78種、草本等46種)の植物名(民族名)やその利用方法について聞き取り、未同定のものについては Mbago 氏(国立ダルエスサラーム大学ハーバリウム)の協力を仰ぎ同定し学名を確認した。それら植物について分布地域、食用利用方法、植物の概要等について調べた。

(A2) 野生植物・在来食の栄養分析

先行研究も参照しながら、B2の調査(阪本他2021)よりドドマ州において雨季の野生食物摂取が健康に良好な影響を与えていることが明らかになったため、雨季に摂取される食用雑草に注目し、13種類20形態・部位(乾燥・生等、葉・種)のサンプルを収集し、10種類15形態の野生食物や在来種について、栄養分析を行った。ダルエスサラーム大学 Dr. Lilian Kaale の協力もと、水分・たんぱく質・灰・繊維・脂質・炭水化物・鉄分・カルシウム・食塩相当量については International Institute of Tropical Agriculture (IITA)、カロチン・ビタミンCについては Tanzania Bureau of Standards (TBS) にて分析した。そのうち、7種類の食用雑草について論文にて報告した(Sakamoto et al. 2022a)。その結果、鉄分やカルシウムが高く、半乾燥地ドドマでの鉄分摂取が他地域より多いという先行研究(Stuetz et al. 2019)との整合性も見出された。

(B) 食生活・栄養摂取・健康、野生植物・在来食の認識に関する研究

(B1) 対象地域の位置づけ

ドドマ州は急性・慢性栄養失調が多く、首都に宣言されたため急速に都市化がすすみ、森林の喪失も目立つ。南東部リンディ州は栄養失調が多いとされていたが栄養状態の改善がみられ、森林にも隣接している。最大都市ダルエスサラームや、観光地ザンジバルは、深刻な急性栄養失調が近年多くなっている。研究対象地域として追加したイリンガ州は、タンザニアの穀倉地帯として認識されている(図1参照)。

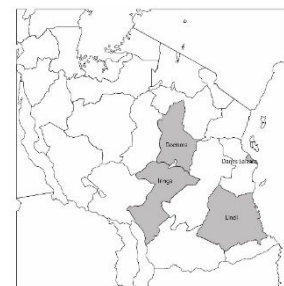


図1 研究対象地域

(B2) タンザニア対象地域の食生活・栄養摂取に関する現地調査

タンザニア中部半乾燥地ドドマ州、南東部リンディ州、経済都市ダルエスサラームにおいて、5世帯を対象とした食事調査を実施し、とりまとめた(阪本2022)。また、ドドマ州チナンガリ村、リンディ州海岸沿いきジウェニ村、内陸マロロ村、イリンガ州において質問票インタビュー調査を合計424名対象に実施した(Sakamoto et al. 2020a, b, c, 2021a)。また前者3地域の分析の結果、とくに半乾燥地において、野生食物摂取が高い対象者の主観的健康評価が高いことが明らかになった(阪本他2021)。この結果は、タンザニアの半乾燥地における食事を「伝統的内陸パターン」としてBMIが適切で貧血が少なく健康的とする先行研究(Keding et al. 2011)との整合性が見出された。

(B3) 地域における野生植物の食利用と在来食の認識・加工に関する現地調査を行う。

ドドマにおける食用雑草(*Ipomoea mombassana*, *Ipomoea obsura*)を乾燥させた在来食 *Sagula sagula* や *Chipali* の加工方法において調査・記録した。また、リンディにおける野生食物 *Tacca leotopopetaloides* の加工方法についても調査・記録した(いずれも Sakamoto et al. 2023b に収録)。

(B4) 食生活・栄養摂取状況地域比較、野生植物・在来食認識地域比較 (B2, B3 とりまとめ)

野生食物や在来食の認識については、ドドマ、リンディ、イリンガ、ザンジバルにおいて、子どもの絵を通して把握することを試み、初期的分析結果を日本アフリカ学会学術大会にて発表した(Sakamoto et al. 2023a)。

(AB5) 調査結果を、対象地域及びタンザニア関係機関にて還元、提言、発表

調査結果の現地調査対象地域リンディ州ならびにドドマ州においてフィードバックを実施した。リンディ州では、マロロ村、キジウェニ村、ラハレオ小学校においてフィードバックの会合を実施した。ドドマ州では、栄養分析を実施し鉄分やカルシウムの高さが目立った半乾燥地の7種類の食用雑草について、現地での有用性を周知するため、スワヒリ語ポスターを作成した(図2)。



図2 食用雑草栄養価のポスター

野生食用植物 124 種やその栄養価について、*Field Guide to Edible Plants and its Nutrition in Tanzania: Focusing on Dodoma and Lindi* (フィールドガイド タンザニアの食用植物と栄養価 ドドマとリンディ編)としてとりまとめた (Sakamoto et al. 2023b)。

また、研究結果に基づく図書に関して国際的な出版社にて企画として認められ、以下の章だてで国際共著にて印刷中である (Sakamoto et al. in press)。

- 1 Introduction: Changing Dietary Patterns, Indigenous Foods, and Wild Foods in Relation to Wealth, Mutual Relations, and Health in Tanzania  
Kumiko Sakamoto, Lilian Kaale, Reiko Ohmori, and Tamahi Kato
- Part I: Food in Tanzania: Obtaining Foods and Combining Them in the Varied Environment
- 2 Environment, Dietary Patterns, and Combinations of Food Intake in Tanzania  
Kumiko Sakamoto, Lilian Daniel Kaale, Reiko Ohmori, Katsunori Tsuda, and Tamahi Kato
- 3 Purchase, Cultivation, and Forage: Does it Make a Difference in Food Intake Frequency?  
Kumiko Sakamoto, Lilian Daniel Kaale, Reiko Ohmori, Katsunori Tsuda, and Tamahi Kato
- Part II: Analysis of Dietary Patterns, Health, Wealth, and Mutual Relations
- 4 Does Staple Food Sufficiency Ensure Food Variety? Comparative Analysis from South, Southeast, and Central Tanzania  
Momoko Muto, Tamahi Kato, Kumiko Sakamoto, and Reiko Ohmori
- 5 Changing Dietary Patterns and Associated Social Context: Subjective Health Quality of Life, Wealth, and Mutual Regions in Tanzania  
Kumiko Sakamoto, Lilian Kaale, Reiko Ohmori, and Tamahi Kato
- 6 Social Capital and Subjective “Poverty” Contributing to People’s Subjective Health, But Not Financial Support  
Reiko Ohmori, Tamahi Kato, and Kumiko Sakamoto
- Part III: Case Studies: Changing Dietary Patterns and Implication on Health
- 7 Growth with Disparity in a Rich Diverse City: Case of the Economic Capital Dar es Salaam  
Lilian Kaale, Tamahi Kato, and Kumiko Sakamoto
- 8 High Maize Productive Rural Inland: Ample Staple Food But How about Health?  
Tamahi Kato, Kumiko Sakamoto, Reiko Ohmori, Ayusa Okui, and Parinya Kemmarth
- 9 Coastal Traditional and Changing Dietary Patterns: Protein from Fish and Pulse, but also Purchase Pattern  
Anna C. Maro, Lilian Kaale, Parinya Khemmarath, Kumiko Sakamoto, and Reiko Ohmori
- Part IV: Wild Food Intake and Association with Health
- 10 Does Intake of Wild Foods Improve Subjective Health? Evidence from 3 Areas of Tanzania  
Kumiko Sakamoto, Reiko Ohmori, Lilian Kaale, Frank Mbago, Katsunori Tsuda, and Tamahi Kato
- 11 Case of Inland Forest Vicinities in Tanzania: General Low Health Evaluation but Higher for Those Who Access Variety of Wild Foods ?  
Kumiko Sakamoto, Lilian Daniel Kaale, Anna C. Maro, Parinya Khemmarath, Reiko Ohmori, Frank M. Mbago, and Tamahi Kato
- 12 Traditional Semi-arid Agro-pastoral Inland Dietary Patterns and Society: Frequent Food Deficits but Balanced BMI and Prevention of Anemia  
Kumiko Sakamoto, Reiko Ohmori, Lilian Kaale, Frank Mbago, Parinya Khemmarath, Katsunori Tsuda, and Tamahi Kato
- 13 Nutrition Potential of African Wild Leafy Vegetables: Evidence from Semi-Arid Central Tanzania  
Lilian Kaale, Kumiko Sakamoto, and Reiko Ohmori
- 14 Conclusions: So What is the Secret to Good Health and How is Wealth and Mutual Assistance Related?  
Kumiko Sakamoto, Lilian Kaale, Reiko Ohmori, and Tamahi Kato

食の変容、在来食、野生食物を、富・相互扶助・健康と関連づけてタンザニアを題材に議論している上記図書では、第 I 部にてタンザニアの異なる地域の環境を概観した後、食材の獲得方法、変化する食パターン、食事の組み合わせによる食生活について描写した。

第 II 部では、食事パターンと、健康、富、相互扶助について統計的に分析した結果を提示した。第 4 章では、主食が充足していても多様性が必ずしも担保されない点、第 5 章では、変容する食事パターンと健康認識の関係について、第 6 章では社会関係や「貧困」が人びとの主観的健康に貢献し、必ずしも経済的支援が同様の効果をもたらすとは言えないことを示した。

第 III 部では、変容する食生活が健康にどのような影響があるか、経済大都市のダルエスサラーム (第 7 章) 穀倉地帯のイリンガ (第 8 章) リンディ州海岸沿い (第 9 章) の事例を用いて示した。

第 IV 部では、野生食物が健康にどのような影響があるか、統計的な分析を示した (第 10 章) 後、リンディ州内陸 (第 11 章) 半乾燥地ドドマ州 (第 12 章) の状況を説明した。その

後、半乾燥地の食用雑草の栄養価について提示した（第13章）。これらの議論をまとめる形で、食をめぐる健康が、どのように富と相互扶助と関係しているか議論し、変容する食パターンに対する提言を示している。

#### 参考文献

- Keding, G. B., Msuya, J. M., Maass, B. L., & Krawinkel, M. B., 2011, "Dietary Patterns and Nutritional Health of Women: The Nutrition Transition in Rural Tanzania." *Food and Nutrition Bulletin*. Vol. 32, Issue 3, pp.218-229. <https://doi.org/10.1177/156482651103200306>
- 大森玲子・阪本公美子・津田勝憲, 2020, 「東アフリカにおける食物摂取状況と健康関連 QOL との関連 タンザニアの2地域における予備的研究から」『地域デザイン科学』第7号, pp.35-42. <http://hdl.handle.net/10241/00012126>
- Sakamoto Kumiko, Ohmori Reiko, and Tsuda Katsunori, 2020a, "Health, Livelihoods, and Food Intake of Children and Adults in Central Tanzania: From Questionnaire Interviews in Chinangali I Village, Chamwino District, Dodoma Region", 『地域デザイン科学』第7号, pp.43-63. <http://hdl.handle.net/10241/00012127>
- Sakamoto Kumiko, Ohmori Reiko, and Okui Ayusa, 2020b, "Situation of Women and Children in Southern Tanzania: From Questionnaires in Ifunda, Iringa with Focus on Food-intake and Health", *Journal of the School of International Studies, Utsunomiya University*, no.49 , pp.61-78. <http://hdl.handle.net/10241/00012115>
- Sakamoto Kumiko, Parinya Khemmarath, Ohmori Reiko, and Anna C. Maro, 2020c, "Health, Livelihoods, and Food Intake in Coastal Southeast Tanzania: From questionnaire interviews in Kijiweni Village, Lindi Region", *Journal of the School of International Studies, Utsunomiya University*, no.50 , pp.11-29. <http://hdl.handle.net/10241/00012361>
- Sakamoto Kumiko, Parinya Khemmarath, Ohmori Reiko, and Anna C. Maro, 2021a, "Health, Livelihoods, and Food Intake in Inland Southeast Tanzania: From questionnaire interviews in Malolo Village, Lindi Region", *Journal of the School of International Studies, Utsunomiya University*, no.51, pp.15-34. <http://hdl.handle.net/10241/00012762>
- Sakamoto Kumiko, Parinya Khemmarath, Ohmori Reiko, and Anna C. Maro, 2021b, "Food Intake and Health of School Children in Southeast Tanzania: Preliminary Questionnaire in Raha Leo Elementary School, Lindi Municipal", *Journal of the School of International Studies, Utsunomiya University*, no.52, pp.27-38. <http://hdl.handle.net/10241/00012958>
- 阪本公美子・大森玲子・津田勝憲, 2021, 「タンザニア3地域における野生食物摂取と成人の主観的健康の関係 中部半乾燥地、南東部内陸・海岸沿いの事例に基づく考察」『国際開発研究』第30巻, 第2号, pp.93-112. 査読あり) [https://doi.org/10.32204/jids.30.2\\_93](https://doi.org/10.32204/jids.30.2_93)
- 阪本公美子・大森玲子・津田勝憲, 2022, 「食事日誌からみるタンザニア3地域における食品摂取 - 食品群別摂取頻度・入手元・世帯内差に関する分析の試み - 」『宇都宮大学国際学部研究論集』53号, pp.15-30. <http://hdl.handle.net/10241/00013096>
- Sakamoto, K., Kaale, L., Ohmori, R., 2022a, "Nutrient Content of Seven African Wild Leafy Vegetables in Semi-arid Tanzania." *Journal of International Development Studies, Utsunomiya University*, no.54, pp.17-28. <http://hdl.handle.net/10241/00013538>
- Sakamoto Kumiko, Eugenia Kafanabo, Eliud Kabelege, Ohmori Reiko, Kikuchi Yukiko, and Tsuda Katsunori, 2022b, "Is Wild Food Utilized by Primary School Children in Urban and Semi-urban Areas of Tanzania?" In Relation to Their Diet and Health from a Survey in Dar es Salaam and Pwani Regions." *Journal of International Development Studies, Utsunomiya University*, no.55, pp.1-14. <http://hdl.handle.net/10241/00013552>
- Sakamoto Kumiko, Hitomi Toshiki, Kikuchi Yukiko, Kabuta Masahiko, Ohmori Reiko, Anna C. Maro, Tsuda Katsunori, Frank Mbago, 2023a, "Wild Food Intake and Recognition of Children in Tanzania: Comparison with Adults and Pictures Analysis from Inland and Coastal Southeast." 日本アフリカ学会第40回学術大会.
- Sakamoto Kumiko, Frank Magala Mbago, and Hayashi Masayuki, 2023b, *Field Guild to Edible Plants and its Nutrition in Tanzania: Focusing on Dodoma and Lindi*, Center for Multicultural Public Sphere (CMPS).
- Sakamoto Kumiko, Lilian Kaale, Ohmori Reiko, and Kato Tamahi, in press, *Changing Dietary Patterns, Indigenous Foods, and Wild Foods: In Relation to Wealth, Mutual Relations, and Health in Tanzania*, Springer.
- Stuetz, W., Gowele, V., Kinabo, J., Bundala, N., Mbwana, H., Rybak, C., Eleraky, L., Lambert, C., & Biesalski, H. K., 2019, "Consumption of Dark Green Leafy Vegetables Predicts Vitamin A and Iron Intake and Status among Female Small-Scale Farmers in Tanzania." *Nutrients*, vol. 11, no.5, 1025. <https://doi.org/10.3390/nu11051025>

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 26件）

1. 著者名 SAKAMOTO Kumiko, Parinya KHEMMARATH, OHMORI Reiko, and Anna C. MARO	4. 巻 52号
2. 論文標題 Food Intake and Health of School Children in Southeast Tanzania: Preliminary Questionnaire in Raha Leo Elementary School, Lindi Municipal	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the Faculty of International Studies, Utsunomiya University	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 武藤杏子・阪本公美子・津田勝憲・大森玲子	4. 巻 14
2. 論文標題 タンザニア4地域における食品摂取頻度の地域比較及び季節比較	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 多文化公共圏センター年報	6. 最初と最後の頁 166-176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阪本公美子・Lilian Kaale・大森玲子	4. 巻 54号
2. 論文標題 Nutrient content of seven African wild leafy vegetables in semi-arid Tanzania	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of the Faculty of International Studies, Utsunomiya University	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 阪本公美子・大森玲子・津田勝憲	4. 巻 53号
2. 論文標題 食事日誌からみるタンザニア3地域における食品摂取－食品群別摂取頻度・入手元・世帯内差に関する分析の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6. 最初と最後の頁 15-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阪本公美子・大森玲子・津田勝憲	4. 巻 30
2. 論文標題 タンザニア3地域における野生食物摂取と成人の主観的健康の関係 中部半乾燥地、南東部内陸・海岸沿いの事例に基づく考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 93-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32204/jids.30.2_93	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto Kumiko, Eugenia Kafanabo, Eliud Kabelege, Ohmori Reiko, Kikuchi Yukiko, and Tsuda Katsunori	4. 巻 55号
2. 論文標題 Is Wild Food Utilized by Primary School Children in Urban and Semi-urban Areas of Tanzania? : In Relation to Their Diet and Health from a Survey in Da	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of International Development Studies, Utsunomiya University	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 武藤杏子・奥井鮎沙・津田勝憲・阪本公美子・大森玲子	4. 巻 15
2. 論文標題 タンザニア 5 地域の市場調査 取り扱い食品からみる地域食性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報	6. 最初と最後の頁 143-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阪本公美子・内田啓子・菊地由起子・Stanislaus Acquah・P.D.P.Sanjeewa	4. 巻 15
2. 論文標題 グローバル・サウスとの共創 2022年度活動報告：研究・教育・地域活動をつなぐ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 多文化公共圏センター年報	6. 最初と最後の頁 68-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大森玲子	4. 巻 No.771
2. 論文標題 食事と健康～環境による食の特性への理解を～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 下野教育	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山緑, 大森玲子	4. 巻 10号
2. 論文標題 フレイル予防教室「シニアカフェ」参加者のフレイル評価と主観的な満足感、健康感の関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宇都宮大学地域デザイン科学部研究紀要『地域デザイン科学』	6. 最初と最後の頁 303-309
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kishimoto Y, Aoyama M, Saita E, Ikegami Y, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y	4. 巻 28
2. 論文標題 Associations between plasma kinin B1 receptor levels and the presence and severity of coronary artery disease	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Atheroscler Thromb	6. 最初と最後の頁 1195-1203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.59899	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamazaki Y, Kishimoto Y, Saita E, Aoyama M, Ikegami Y, Ohmori R, Tanimoto K, Kondo K, Momiyama Y	4. 巻 62
2. 論文標題 Association between Plasma Follistatin-like Protein 1 Levels and the Presence and Severity of Coronary Artery Disease.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int Heart J	6. 最初と最後の頁 1207-1212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1536/ihj.21-203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Kishimoto Y, Aoyama M, Saita E, Ohmori R, Tanimoto K, Kondo K, Momiyama Y	4. 巻 14
2. 論文標題 No Significant Association Between Plasma Endosialin Levels and the Presence or Severity of Coronary Artery Disease.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Clin Med Res	6. 最初と最後の頁 202-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14740/jocmr4730	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aoyama M, Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Tanimoto K, Nakamura M, Kondo K, Momiyama Y	4. 巻 23
2. 論文標題 High Plasma Levels of Fortilin in Patients with Coronary Artery Disease	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Int J Mol Sci	6. 最初と最後の頁 8923
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms23168923	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aoyama M, Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Tanimoto K, Nakamura M, Kondo K, Momiyama Y	4. 巻 10
2. 論文標題 Plasma Concentrations of Vinculin versus Talin-1 in Coronary Artery Disease	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Med Sci	6. 最初と最後の頁 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/medsci10030046	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SAKAMOTO Kumiko, Parinya KHEMMARATH, OHMORI Reiko, and Anna C. MARO	4. 巻 50号
2. 論文標題 Health, Livelihoods, and Food Intake in Coastal Southeast Tanzania: From Questionnaire Interviews in Kijiweni Village, Lindi Region	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the School of International Studies, Utsunomiya University	6. 最初と最後の頁 11,29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 SAKAMOTO Kumiko, Parinya KHEMMARATH, OHMORI Reiko, and Anna C. MARO	4. 巻 51号
2. 論文標題 Health, Livelihoods, and Food Intake in Inland Southeast Tanzania: From Questionnaire Interviews in Malolo Village, Lindi Region	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the School of International Studies, Utsunomiya University	6. 最初と最後の頁 15,34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 SAKAMOTO Kumiko	4. 巻 48号
2. 論文標題 Herbal Medicine Use and Diversity/Sharing of the Knowledge: The case of Rutamba villages in Lindi Region, Southeast Tanzania	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the Faculty of International Studies, Utsunomiya University	6. 最初と最後の頁 41-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SAKAMOTO Kumiko, OHMORI Reiko, and TSUDA Katsunori	4. 巻 7
2. 論文標題 Health, Livelihoods, and Food Intake of Children and Adults in Central Tanzania: From questionnaire interviews in Chinangali I Village, Chamwino District, Dodoma Region	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域デザイン科学	6. 最初と最後の頁 42-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SAKAMOTO Kumiko, OHMORI Reiko, and OKUI Ayusa	4. 巻 49号
2. 論文標題 Situation of Women and Children in Southern Tanzania: From questionnaires in Ifunda, Iringa with focus on food-intake and health	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the Faculty of International Studies, Utsunomiya University	6. 最初と最後の頁 61-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Niki H, Kishimoto Y, Ibe S, Saita E, Sasaki K, Miura K, Ikegami Y, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y.	4. 巻 26
2. 論文標題 Associations Between Plasma Betatrophin Levels and Coronary and Peripheral Artery Disease.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Atheroscler Thromb.	6. 最初と最後の頁 573-581
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.46508	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ibe S, Kishimoto Y, Niki H, Saita E, Umei T, Miura K, Ikegami Y, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y	4. 巻 34
2. 論文標題 Associations between plasma nesfatin-1 levels and the presence and severity of coronary artery disease.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Heart Vessels	6. 最初と最後の頁 965-970
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00380-018-01328-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Umei Tomohiko C., Kishimoto Yoshimi, Aoyama Masayuki, Saita Emi, Niki Hanako, Ikegami Yukinori, Ohmori Reiko, Kondo Kazuo, Momiyama Yukihiko	4. 巻 52027
2. 論文標題 High Plasma Levels of Legumain in Patients with Complex Coronary Lesions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.52027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Niki H, Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y	4. 巻 4214650
2. 論文標題 Plasma Betatrophin Levels and Carotid Atherosclerosis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Dis Markers	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2019/4214650	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大森玲子	4. 巻 63
2. 論文標題 食品ロス削減に向けた教育実践－中学校家庭科における教育プログラムの開発－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本栄養士会雑誌	6. 最初と最後の頁 11-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大森玲子, 阪本公美子, 津田勝憲	4. 巻 7号
2. 論文標題 東アフリカにおける食物摂取状況と健康関連QOLとの関連－タンザニアの2地域における予備的研究から－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇都宮大学地域デザイン科学部研究紀要『地域デザイン科学』	6. 最初と最後の頁 35-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阪本公美子	4. 巻 46号
2. 論文標題 タンザニア農村で薬用植物を活用する女性たち ドドマ州、リンディ州、ザンジバルの比較研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6. 最初と最後の頁 9-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阪本公美子, 八塚春名, 須田征志, 津田勝憲	4. 巻 47号
2. 論文標題 タンザニアにおける薬用植物知識の地域性と多層性 秘密・情報共有を選ぶ住民と伝統的医療従事者	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6. 最初と最後の頁 41-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大森玲子, 白石智子, 宮代こずゑ, 石川由美子	4. 巻 5
2. 論文標題 共食イメージによる言葉掛け効果に関する予備的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宇都宮大学地域デザイン科学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kishimoto Y, Sasaki K, Saita E, Niki H, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y	4. 巻 49
2. 論文標題 Plasma Heme Oxygenase-1 Levels and Carotid Atherosclerosis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Stroke	6. 最初と最後の頁 2230-2232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1161/STROKEAHA.118.022256	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kishimoto Y, Ibe S, Saita E, Sasaki K, Niki H, Miura K, Ikegami Y, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y	4. 巻 2018
2. 論文標題 Plasma Heme Oxygenase-1 Levels in Patients with Coronary and Peripheral Artery Diseases	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Dis Markers	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2018/6138124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Seki T, Saita E, Kishimoto Y, Ibe S, Miyazaki Y, Miura K, Ohmori R, Ikegami Y, Kondo K, Momiyama Y	4. 巻 25
2. 論文標題 Low Levels of Plasma Osteoglycin in Patients with Complex Coronary Lesions	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Atheroscler Thromb	6. 最初と最後の頁 1149-1155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.43059	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyazaki Y, Saita E, Kishimoto Y, Ibe S, Seki T, Miura K, Suzuki-Sugihara N, Ikegami Y, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y	4. 巻 25
2. 論文標題 Low Plasma Levels of Fibroblast Growth Factor-21 in Patients with Peripheral Artery Disease	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Atheroscler Thromb	6. 最初と最後の頁 821-828
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.41731	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計42件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 阪本公美子・津田勝憲・大森玲子
2. 発表標題 食材入手方法 (栽培・購入・採集) と食品群摂取頻度 タンザニア3地域家庭食事日誌調査からの考察ー
3. 学会等名 日本アフリカ学会第59回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪本公美子・大森玲子・津田勝憲
2. 発表標題 家族の食事と個人の栄養摂取 タンザニア3地域の家計食事日誌と個人インタビューから
3. 学会等名 国際開発学会 (JASID)第22回春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大森玲子・阪本公美子
2. 発表標題 東アフリカにおける健康関連QOLに影響する要因分析 タンザニア4地域の比較調査ー
3. 学会等名 第75回日本栄養・食料学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武藤杏子・阪本公美子・大森玲子
2. 発表標題 タンザニアにおける食品摂取頻度の地域比較及び季節比較
3. 学会等名 第75回日本栄養・食料学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sakamoto Kumiko
2. 発表標題 Relationship between Intake of Wild Food and Health: Comparison of Semi-Arid Central and Inland/Coastal Southeast of Tanzania
3. 学会等名 40th Resilience Seminar, Kyoto University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪本公美子・大森玲子・津田勝憲
2. 発表標題 タンザニアの小学生の食品群・野生食物摂取と健康 南東部リンディ市におけるパイロット質問票調査ー
3. 学会等名 国際開発学会 (JASID)第32回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪本公美子・津田勝憲・大森玲子
2. 発表標題 タンザニア都市近郊における小学生が食べる野生食物に関する予備的報告 ダルエスサラーム、プワニ州、リンディ州小学校における質問票調査より
3. 学会等名 日本アフリカ学会第60回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阪本公美子・大森 玲子・津田 勝憲
2. 発表標題 タンザニアの小学生の食品群・野生食物摂取と健康に関する予備的報告 ガルエスサラームとプワニ州における質問票調査より
3. 学会等名 国際開発学会(JASID)第23回春季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 SAKAMOTO Kumiko, HITOMI Toshiki, KIKUCHI Yukiko, KABUTA Masahiko, OHMORI Reiko, Anna C. MARO, TSUDA Katsunori, Frank MBAGO
2. 発表標題 Wild food intake and recognition of children in Tanzania: From analysis of questionnaires comparison with adults and pictures of inland and coastal southeast
3. 学会等名 日本アフリカ学会第60回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kumiko Sakamoto, Toshiki Hitomi et al.
2. 発表標題 Wild food and food group intake and health among children in Tanzania: From the cases of 3 villages in central, southeast inland/coast
3. 学会等名 国際開発学会第24回春季大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大類遥, 大森玲子
2. 発表標題 地域の食支援の在り方に対する考察と展望
3. 学会等名 第24回家政学関連卒業論文・修士論文発表会
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 石川絢萌, 大森玲子
2. 発表標題 食環境と主観的健康感の関連について
3. 学会等名 第24回家政学関連卒業論文・修士論文発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 向田有香, 大森玲子
2. 発表標題 非常食としての大豆製品の活用と大豆タンパク質加工品に対する意識調査
3. 学会等名 第76回日本栄養・食糧学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 縦山幸彦, 岸本良美, 才田恵美, 大森玲子, 近藤和雄
2. 発表標題 冠動脈造影施行例における抗酸化食品の摂取と冠動脈疾患との関連性
3. 学会等名 第76回日本栄養・食糧学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 縦山幸彦, 岸本良美, 才田恵美, 大森玲子, 近藤和雄
2. 発表標題 The Japan Dietで推奨される食品の摂取と冠動脈疾患の関連について：冠動脈造影施行例での検討
3. 学会等名 第54回日本動脈硬化学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 縦山幸彦, 岸本良美, 青山真之, 才田恵美, 大森玲子, 谷本耕司郎, 近藤和雄
2. 発表標題 The Japan Dietとして推奨される食品の摂取頻度と冠動脈疾患の関連性：冠動脈造影施行例における検討
3. 学会等名 第70回日本心臓病学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 縦山幸彦, 岸本良美, 才田恵美, 大森玲子, 近藤和雄
2. 発表標題 大豆製品の摂取と冠動脈疾患との関連性：冠動脈造影施行例における検討
3. 学会等名 第44回日本臨床栄養学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Momiya Y, Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Kondo K
2. 発表標題 The associations between coronary artery disease and the intakes of foods recommended as The Japan Diet in patients undergoing coronary angiography
3. 学会等名 22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井澤莉佳, 大森玲子
2. 発表標題 若年女性を対象とした健康教育プログラムの開発 - 事前調査から見た介入対象者の現状と課題 -
3. 学会等名 第30回日本健康教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Iwata M, Satoh E, Maruoka M, Ohmori R
2. 発表標題 A framework for the virtuous circulation of food resources in local cities
3. 学会等名 58th ISOCARP World Planning Congress
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 SAKAMOTO Kumiko, MUTO Momoko, OHMORI Reiko, Lilian KAALE, Linus MUNISHI
2. 発表標題 Potentials of Wild Edible Plants and Traditional Foods in Africa: Findings from Tanzania
3. 学会等名 The 4th UU-A International Symposium Series, Utsunomiya University (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阪本 公美子・大森玲子・津田勝憲
2. 発表標題 野生植物を食べると健康になる？ タンザニア中部ドドマ州Chinangali 1村における質問票インタビュー調査より
3. 学会等名 日本アフリカ学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阪本公美子・大森玲子・津田勝憲
2. 発表標題 食材入手方法（栽培・購入・採集）と食品群摂取頻度 タンザニア3地域家庭食事日誌調査からの考察
3. 学会等名 日本アフリカ学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪本公美子・大森玲子・津田勝憲
2. 発表標題 タンザニアにおける野生食物の摂取と健康の関係 年齢・食糧不足・貧困も加味した4地域比較分析
3. 学会等名 国際開発学会 (JASID)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阪本公美子・大森玲子・津田勝憲
2. 発表標題 家族の食事と個人の栄養摂取 タンザニア3地域の家計食事日誌と個人インタビューから
3. 学会等名 国際開発学会 (JASID)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪本公美子・重田康博
2. 発表標題 ブックトーク『日本の国際協力』シリーズ ミネルヴァ書房
3. 学会等名 国際開発学会 (JASID)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪本公美子・大森玲子
2. 発表標題 野生植物摂取と健康 - ドドマ州Chinangali村を中心に
3. 学会等名 「アフリカ農民の生計における現金獲得活動と在来の技術革新史」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阪本公美子
2. 発表標題 タンザニア中部ドドマ半乾燥地農牧民ゴゴの在来粗食の現代的意味
3. 学会等名 「アフリカ農民の生計における現金獲得活動と在来の技術革新史」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SAKAMOTO Kumiko, Frank Mgalla MBAGO and Mmadi SHAMATA Hamad
2. 発表標題 Plants for Spices, Fruits and Traditional Medicine in Zanzibar
3. 学会等名 日本アフリカ学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大森玲子、阪本公美子
2. 発表標題 東アフリカにおける食品摂取状況と健康関連QOLとの関連
3. 学会等名 第73回日本栄養・食糧学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岸本良美、仁木華子、才田恵美、井部進、梅井智彦、三浦光太郎、池上幸憲、大森玲子、近藤和雄、樺山幸彦
2. 発表標題 冠動脈疾患における血中Heme Oxygenase-1とビリルビン濃度
3. 学会等名 第51回日本動脈硬化学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kozue Miyashiro, Reiko Ohmori, Satoko Shiraishi, Yumiko Ishikawa
2. 発表標題 Looks Delicious? Cerebral Blood flow in Young Adults with Eating Disorder Tendencies on Exposure to Food Pictures
3. 学会等名 The 41st Annual Meeting of the Cognitive Science Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 栗島英明、菱沼竜男、大森玲子
2. 発表標題 消費者行動由来の食品ロスに対する消費者意識調査
3. 学会等名 第30回廃棄物資源循環学会研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kurishima Hideaki, Hishinuma Tatsuo, Omori Reiko
2. 発表標題 Survey on awareness of food loss caused by consumer behaviors and feasibility of improvement behaviors
3. 学会等名 International Solid Waste Association 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kurishima Hideaki, Hishinuma Tatsuo, Omori Reiko
2. 発表標題 Development of Educational Program about Food-loss-derived-feed Leading to Sustainable Consumption and Production
3. 学会等名 World Environmental Education Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 栗島英明、菱沼竜男、大森玲子
2. 発表標題 持続可能な消費と生産につなげるための食品ロス飼料化を題材とした情報提供プログラムの開発(2)：消費者行動に由来する食品ロスに関する情報提供プログラムの試行
3. 学会等名 第15回日本LCA学会研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阪本公美子
2. 発表標題 故リトゥヌング氏のタンザニア南東部における研究への貢献
3. 学会等名 第55回日本アフリカ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ibe S, Kishimoto Y, Saita E, Sasaki K, Niki H, Ikegami Y, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y
2. 発表標題 Plasma osteoglycin levels in patients with and without coronary artery disease and relation to complex coronary lesions
3. 学会等名 XVIII International Symposium on Atherosclerosis (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kishimoto Y, Ibe S, Saita E, Sasaki K, Niki H, Ikegami Y, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y
2. 発表標題 Associations between plasma heme oxygenase-1 levels and coronary and peripheral artery disease
3. 学会等名 XVIII International Symposium on Atherosclerosis (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岸本良美, 才田恵美, 田口千恵, 大東華子, 佐々木賢二, 井部進, 池上幸恵, 大森玲子, 近藤和雄, 樺山幸彦
2. 発表標題 緑茶およびコーヒーの摂取と冠動脈疾患(CAD)発症との関連性について
3. 学会等名 第50回日本動脈硬化学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗島英明, 菱沼竜男, 大森玲子
2. 発表標題 持続可能な消費と生産につなげるための食品ロス飼料化を題材とした 情報提供プログラムの開発(1): 消費者行動由来の食品ロス発生に対する 認知度と改善行動の実行可能性に関する調査結果
3. 学会等名 第14回日本 L C A 学会研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菱沼竜男, 大森玲子
2. 発表標題 豚肉を事例としたライフサイクル思考を取り入れた食育教材の試作
3. 学会等名 第14回日本 L C A 学会研究発表会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 Sakamoto Kumiko, Frank Magala Mbago	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Center for the Multicultural Public Sphere (CMPS)	5. 総ページ数 226
3. 書名 Field Guide to Edible Plants and its Nutrition in Tanzania: Focusing on Dodoma and Lindi	



1. 著者名 Kumiko Sakamoto & Frank Mgalla Mbago	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山と溪谷社	5. 総ページ数 270
3. 書名 109 Useful Plants in the Coastal Bushland of the Lindi Region, Southeast Tanzania	

1. 著者名 Sakamoto Kumiko & Frank Mgalla Mbago	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Impress R&D	5. 総ページ数 222
3. 書名 91 Useful Plants in Deciduous Bushland and Thickets of the Dodoma Region, Central Tanzania	

1. 著者名 阪本公美子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 20
3. 書名 「トップダウンの開発と住民の相互扶助や在来知」 『SDGs時代のグローバル開発協力論 開発援助・パートナーシップの再考』	

1. 著者名 重田康博・真崎克彦・阪本公美子編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 262
3. 書名 SDGs時代のグローバル開発協力論 開発援助・パートナーシップの再考	

1. 著者名 SAKAMOTO Kumiko	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Shunpusha	5. 総ページ数 531
3. 書名 Social Development, Culture, and Participation	

1. 著者名 春風社編集部・編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 8
3. 書名 「国際的な発信を目指して」『わたしの学術書』	

1. 著者名 阪本公美子・岡野内正・山内達也編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書店	5. 総ページ数 368
3. 書名 日本の国際協力 中東・アフリカ編 貧困と紛争とどう向き合うか	

1. 著者名 林将之、名嘉初美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ボーダーインク	5. 総ページ数 344
3. 書名 沖縄の身近な植物図鑑	

1. 著者名 Kumiko Sakamoto, Lilian Kaale, Reiko Ohmori, and Tamahi Kato	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 -
3. 書名 Changing Dietary Patterns, Indigenous Foods, and Wild Foods	

1. 著者名 阪本公美子, 杉山祐子, 坂井真紀子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三恵社	5. 総ページ数 32
3. 書名 ニョタのふしぎな音楽～タンザニアの星空のもとで～	

1. 著者名 SAKAMOTO Kumiko	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 201
3. 書名 Factors Influencing Child Survival in Tanzania: Comparative Analysis of Diverse Deprived Rural Villages	

1. 著者名 阪本公美子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 520
3. 書名 開発と文化における民衆参加	

1. 著者名 SAKAMOTO Kumiko, Mmadi H. SHAMATA, Frank Mbago	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Dar es Salaam Universtiy Press	5. 総ページ数 248
3. 書名 104 Plants for Spices, Fruits and Traditional Medicine in Zanzibar	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>UU-A 第4回連続シンポジウム「アフリカの野生食物と伝統食の可能性：タンザニアからの研究成果」  <a href="https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp/4th_symposium/">https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp/4th_symposium/</a>  4th UU-A Int'l Sympo Wild edible plants  <a href="https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp/the-4th-uu-a-international-symposium-series%e3%80%80/">https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp/the-4th-uu-a-international-symposium-series%e3%80%80/</a>  宇都宮大学国際学部阪本公美子HP「研究テーマ2018～2022：野生食用植物&amp;栄養」「研究業績」  <a href="https://sakamoto-kumiko.hatenadiary.org/">https://sakamoto-kumiko.hatenadiary.org/</a>  宇都宮大学国際学部多文化公共圏センター お知らせ  <a href="http://cmpps.utsunomiya-u.ac.jp/news/event/">http://cmpps.utsunomiya-u.ac.jp/news/event/</a>  宇都宮大学国際学部阪本公美子HP 研究テーマ 2018-2022：野生食用植物&amp;栄養分析  EF%BC%9A%E9%87%8E%E7%94%9F%E9%A3%9F%E7%94%A8%E6%A4%8D%E7%89%A9%EF%BC%86%E6%A0%84%E9%A4%8A  ReserachGate, Kumiko Sakamoto, Project*  <a href="https://www.researchgate.net/project/Possibilities-of-wild-edible-plants-and-traditional-meals-in-East-Africa-Through-nutrition-analysis-in-Tanzania">https://www.researchgate.net/project/Possibilities-of-wild-edible-plants-and-traditional-meals-in-East-Africa-Through-nutrition-analysis-in-Tanzania</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大森 玲子 (Reiko Ohmori)  (70447259)	宇都宮大学・地域デザイン科学部・教授   (12201)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ムバゴ フランク (Mbago Frank M.)	ダルエスサラーム大学・ハーバリウム・curator (植物学)	
研究協力者	カーレ リリアン (KaaLe Lillian)	ダルエスサラーム大学・Dept. Food Science and Technology・Head, Lecturer, Dr. (栄養学)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	林 将之  (Hayashi Masayuki)	このきなんのき・所長、植物図鑑作家	
研究協力者	津田 勝憲  (Tsuda Katsunori)	宇都宮大学・国際学部附属多文化公共圏センター・研究員 (地域研究)	
研究協力者	武藤 杏子  (Momoko Muto)	宇都宮大学・国際学部附属多文化公共圏センター・研究員 (栄養学)	
研究協力者	樫 延子  (Tubaki Nobuko)	タンザニアドドマ州在住・研究助言	
研究協力者	マロ アナ  (Maro Anna)	リンディ州・リンディ市・Community Development Officer	
研究協力者	チモサ マイケル  (Chimosa Michael)	タンザニアドドマ州在住・Field coordinator	
研究協力者	加藤 珠比  (Kato Tamihi)	京都大学・アフリカ地域研究資料センター・特任研究員, Dr. (地域研究)	
研究協力者	人見 俊輝  (Hitomi Toshiki)	宇都宮大学・国際学部・学生(国際学)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Potentials of wild edible plants and traditional foods in Africa : Findings from Tanzania (研究に関する間接的負担あり、直接負担なし)	開催年 2022年～2022年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------